

モジュール学習の導入と可能性

ーPDCA サイクルの検証を通してー

M19EP002

村松 賢志

1. はじめに

新学習指導要領の全面実施が迫る中で、学校においては様々な準備が必要とされる。子どもたちの資質能力の育成や社会に開かれた教育課程などがキーワードとなる中で、特にポイントとなるのは、カリキュラム・マネジメントと考える。これを実現するには、教科横断的な学習の充実、主体的で対話的な深い学び、人的・物的資源の活用など、学校の実情に合わせながら、学校全体がチームとなって取り組まなければならない。そこには、各学校の強みを継続しながら、課題をいかに改善していくのか、学校は主体性が求められている。こうした中で、最も注視したのが、授業時数の確保についてである。新学習指導要領の改訂により、外国語の教科化、道徳の教科化、更にプログラミング教育も導入されようとする中で、学校現場は、これまでも行事の精選や活動内容の工夫を行いながら時数の確保に苦慮してきた。今後、限られた時間の中で、教育の質を維持し、子どもたちの実態に即した教育課程の編成、それを柔軟に対応できる時間の工夫が、これまで以上に大切になると思われる。所属校では、今年度より時数の確保のため、モジュール学習を導入した。また、これまでモジュール学習の実践においては、利点と課題点が指摘されている。そこで、モジュール学習を分析しながら、課題を明確にし、導入するためには何が必要なのか、モジュール学習の可能性について、PDCA サイクルを活用しながら検証していきたい。

2. 研究テーマ

「モジュール学習の導入と可能性」

～PDCA サイクルの検証を通して～

3. 研究テーマの設定理由

学校マネジメントとは、学校の有している能力・資源を、学校に関与する人たちのニーズに適応させながら、学校教育目標を達成していく過程だと、文科省組織マネジメント等開発会議が伝えている。学校教育目標を実現するためには、学校の主体性と創意工夫が益々求められ、教育の質をどのように維持したり、高めていったりするのかを組織として考えていかなければならない。しかし、学校現場に目を向けると、社会の急激な変化に伴い、学力や体力、規範意識の低下、支援を必要とする子どもたちの多様化、いじめや不登校への対策、安全教育や安全管理の徹底、情報化への対応など、課題は山積している。そのような中で、小学校では、来年度から新学習指導要領が全面実施される。新学習指導要領の改訂では、新しい時代に生きる子どもに必要な資質能力の育成、社会と連携した「社会に開かれた教育課程」の実現、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善がポイントとして挙げられるが、その中の一つとして、教育内容が増えてことにも注目しなければならない。国語、算数、社会など、学習内容が増加するだけでなく、プログラミング教育も加わる。そして、小学校中学年に外国語活動、高学年に外国語が教科となる。また、平成29年2月14日に出された小学校におけるカリキュラム・マネジメントの在り方に関する検討会議の報告書からは、「今後とも年間35単位時間増となる中学年及び高学年の時間割編制や児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けて時間割の工夫といった新たな課題に、教育委員会や地域の校長会等と連携して応えながら、カリキュラム・マネジメ

ントの中で、こうした創意工夫を継続していくことが求められる」という内容が示された。カリキュラム・マネジメントの確立には、教科横断的な視点で教育課程を編成すること、教育実践の質を向上させるためにPDCAサイクルを確立すること、実践を可能とする資源（人、金、物、時間、情報）を確保することの3点がポイントになる。特に、時間という限られた資源をどのように教育内容と組み合わせていくのか、カリキュラ・マネジメントの実現が求められてくる。

学校現場に目を向けると、これまでも学習指導要領が改訂される度に、学校では様々な議論がされ、実施に向けて試行錯誤をしながら準備を進めてきた。今回も移行期間の間、教育課程の見直し、学校行事の精選などを行ったり、行事や活動の取り組みの縮小化をしたりしながら、時数が増えることへの対応策を考えてきた。年間授業日数をもとに、教育課程にある標準授業時数、学校行事や特別活動を加えた時数をみると、高学年になるにつれて時数が多くなり、ゆとりの時間がもてなくなる傾向がある。その中で新しく導入される外国語活動、外国語の時数をどこで確保していくのか、大きな議論となっている（表1）。

この時数を確保するためには、長期休みを削り年間授業日数を増加させる、週当たりの授業時数を増加させる、または、その2つを組み合わせるかということが考えられる。長期休みを削ることは、子どもたちの習い事や地域行事との関連が出てきたり、週当たりの授業時数の増加は、子どもたちの下校時間や健康安全面にも影響がでてきたりすることが危惧される。同時に教員の働き方改革が叫ばれる中で、仕事量の適正化を考えていく必要がある。そうした中で、解決策の一つとして、時数を増やさずに、時数を確保することができるモジュール学習が挙げられる。モジュール学習を導入し、学びを維持向上させるためには何が必要か、モジュール学習の課題点を明らかにしながら、その導入や可能性について考えていきたいと思う。

表1 H30年度所属校の時間割(6年1組)

		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
朝活動	8:20～ 8:45	読書・国語	読書・算数	読書・国語	読書・算数	体力づくり
学活	8:45～ 8:55					
1校時	8:55～ 9:40	算数	外国語・総合	社会	道徳	学活
2校時	9:45～ 10:30	体育	社会	音楽	算数	算数
業間休み	10:30～10:50					
3校時	10:55～ 11:40	家/音	国語	算数	外国語	国語
4校時	11:45～ 12:30	家庭科	算数	国語	社会	理科
給食・歯磨き(12:30～13:20) 清掃(13:25～13:40) 昼休み(13:40～13:55)						
5校時	14:00～ 14:45	国語	理科	体育	国語	国工
6校時	14:50～ 15:35	(職員会議) (校内研究会)	理科	委/クラ	総合	図/体

4. モジュール学習と所属校の様子

モジュール学習とは、1単位授業時間を分割する短時間学習のことである。小学校の1単位時間を45分とすると、15分を3回に分けた学習となる。中央教育審議会では、学習指導要領の基本方針で、教科に格上げされる小学校高学年の外国語について、10～15分程度の「モジュール学習」を導入することを提案している。短時間学習は、学校ごとに朝の時間などを用いて、計算プリントや読書、百人一首など、基礎学力の定着や学習習慣、集中力の向上をねらいとして取り組んでいることもあるが、ここで言うモジュール学習は、教育課程の内容の学習を行い、時数のカウントをする授業として位置付ける。

所属校では、これまで月曜日から金曜日まで朝活動として、国語や算数の補充学習、読書活動を行ってきた。この時間は、教育課程にない内容も含まれているため、時数をカウントしてこなかった。今年度より、この朝活動の時間に、3学年以上が火曜日と木曜日に25分間のモジュール学習を導入した。学習内容は、国語に限定して、新出漢字や小単元の学習、書写の学習を行うとし、週1単位時間の国語の学習を捻出した（表2）。

表2 H31年度所属校の時間割(6年1組仮)

		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
朝活動	8:20～ 8:45	読書・国語	国語(モジュール学習)	読書・国語	国語(モジュール学習)	体力づくり
学活	8:45～ 8:55					
1校時	8:55～ 9:40	算数	外国語	社会	道徳	学活
2校時	9:45～ 10:30	体育	社会	音楽	算数	算数
業間休み	10:30～10:50					
3校時	10:55～ 11:40	家/音	総合	算数	外国語	国語
4校時	11:45～ 12:30	家庭科	算数	国語	社会	理科
給食・歯磨き(12:30～13:20) 清掃(13:25～13:40) 昼休み(13:40～13:55)						
5校時	14:00～ 14:45	国語	理科	体育	国語	国工
6校時	14:50～ 15:35	(職員会議) (校内研究会)	理科	委/クラ	総合	図/体

5. 研究内容・方法

研究の内容や方法については、以下の通りである。PDCAサイクルを展開しながら、モジュール学習について、検証した。

◎検証の手順（PDCAサイクルによる検証）

(1)所属校の実態調査と教職員の意識調査(P)

- ・授業参観
- ・モジュール学習の導入による意識調査

(2)周辺校における実践・先進校での実践調査

- ・周辺校の実践調査 (P)
- ・先進校の実践調査、視察

(3)所属校へのモジュール学習の提案(D)

- ・所属校の実態に即したモジュール学習の提案

(4)所属校におけるモジュール学習の検証(C)

- ・モジュールの時間の実施、意識調査、改善

(5)モジュール学習を導入するための提案(A)

- ・モジュール学習の導入と可能性について

6. 検証

(1)検証①

所属校の実態調査と教職員の意識調査

①授業参観

5月、3学年40名单級の授業参観を行った(図1)。小単元の学習で、単元名は「漢字の音と訓」だった。児童は、教師の後に続いて声に出して漢字の読み方を練習したり、声に出した漢字を何度かノートに練習したりして



図1 3年生の授業の様子

理解を図っていた。次に、4学年39名单級の授業参観を行った。小単元の学習で、単元名は「漢字辞典の使い方」だった。児童は、漢字辞典を使って部首や索引に着目しながら、「信」や「村」など、いくつかの漢字を調べ

る活動を行っていた。

翌週、5学年2クラスの授業参観を行った。1組は、小単元の学習で、単元名は「古典の世界(一)」だった。児童は、竹取物語や源氏物語の教科書にある絵巻物の挿絵を見たり、本文の解説を聞いたりしていた。2組は、「新出漢字」の学習で、児童は、「属」「夢」「識」「応」の4つの漢字について、書き順を確認したり、ドリルを使ったりしながら習得を図っていた。

その翌週、6学年2クラスの授業参観を行った。1組、2組ともに「新出漢字」の学習で、主に3つの活動を児童は行っていた。「ごんべん」の漢字をノートに書き出す活動、国語辞典を使つての意味調べ、クラス全体で指や声を使って書き順を確認する活動だった。

参観を通して見えてきたものは、8時20分開始の学習ということで、児童たちは登校して間もないことから、準備が間に合わず時間が守れなかったり、気持ちが学習に向かっていなかったりする様子が伺えた。何度か回数を重ねることで改善され、学習内容についても、学ぶ内容が明確になり、学習がスムーズに展開されていく様子が伺うことができた。しかし、課題として見えてものは以下の3点である。

- ・ノートの不連続性（学習内容の順序が異なることから、継続されないノート履歴になること）
- ・時間内に終えない学習内容（小単元については、時間内に内容が終わらないこと）
- ・教育課程から遅れている学習状況（行事の準備、生徒指導等で実施できないことがあること）

授業参観のまとめとして、学習内容を学年で共有化したり、計画をしっかり立てたりすることの必要性を感じた。

②モジュールの時間の導入による意識調査

- ・時期 2019年6月実施
 - ・対象者 所属校教職員20名
- 所属校の教職員へアンケートを行った。ア

ンケート項目は、モジュール学習のこれまでの経験や印象、2か月間実施してみでの意見や感想とした。落ち着いた雰囲気での一日のスタートがきれること、新出漢字の学習がうまく進むなど、肯定的な意見も聞かれたが、多数は、朝の余裕がなく時間をしっかり確保することが難しいこと、児童の学習に向かう姿勢が十分でないことなど、戸惑う意見だった。教員側も児童側も授業という意識に課題があることがわかった。

(2)検証②

周辺校における実践・先進校での実践調査

①周辺校の実践調査

- ・時期 2019年6月実施
- ・対象校 山梨県F市立の公立学校19校
(小学校14校、中学校5校)

山梨県F市の小中学校に協力をお願いして調査を実施することができた(図2)。

調査内容は、モジュール学習の実施状況と今後の見通しについてとした。中学校5校はモジュール学習の実施はなく、今後も導入の予定はないとのことだった。小学校は6割がモジュール学習を導入していることがわかった。時間帯については、朝の時間が多く、昼過ぎに行っている学校もあった。時間は、15分間が最も多かった。内容については様々で、国語の言語事項や書写、算数では計算問題や習熟問題、その他にも外国語や音楽、総合で行っているとのことだった。意見として、短時間なので児童の集中力が上がることで、授業で補えない内容ができること、時数が確保できることなど、肯定的なものもあったが、時間的なゆとりがないために深い学びにならないこと、時間確保が難しいこと、学習計画を立てることが大変なことなど、課題も多く聞かれた。多くの学校でモジュール学習を導入しているが、課題が多いことがわかった。学習内容を精選すれば、計画をしっかりと立てればといった条件を満たすことで成果に繋がれる可能性を感じている声が印象的であった。

モジュール学習に関する調査について

山梨大学教育学部 教育実践創成専攻
教育実践開発コース
村松 賢志

私は、教職大学院において、学校マネジメントの観点から新学習指導要領の増える課題について研究をしています。モジュール学習については多くの課題が指摘されていますが、子どもたちにとって、有効な学習の時間にできるように研究を進めていきたいと思っています。お忙しいと思いますが、ご協力をよろしくお願い致します。

※モジュール学習とは、通常の授業を分けて行う短時間学習のこと。読書や計算など、教育課程にない学習ではなく、あくまでも授業として時数にカウントする学習のこととします。

① モジュール学習をこれまで(今年度も含めて)にしたことがありますか

ある ・ ない ・ 今後検討していく予定

② ①で「ある」と選択された場合のみ、お答えください。

(a) どんな内容の学習をしましたか(していますか)

(b) いつの時間帯に行っていますか(行っていましたか)

(c) また、それは子どもたちの学習にとって効果的でしたか(効果的ですか)

効果的であった(効果的だと思う) ・ 効果的でなかった(効果的ではない) ・ どちらともいえない

(理由)

図2 モジュール学習に関する調査について

※一部抜粋

②先進校の実践調査、視察

- ・時期 2019年7月実施
- ・視察校
京都府宇治田原町立
宇治田原小学校
- ・学校の概要



文科省指定(平成29・30年度)委託授業のカリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究から、より教育効果を高める時程の研究～10分間のモジュール授業を通して～を研究し、実践している学校である。

宇治田原町は、周辺を茶畑に囲まれた自然豊かなところで、3つの小中学校があるののかなところであった。その中の一つ、宇治田原小を訪れた。目的は、モジュール学習導入の経緯を聞いたり、モジュール授業を実際に参観したりすることだった。導入の経緯については、新学習指導要領による時数の増加があるが、もう一つ大きな要因として、宇治田原町にある2つの小学校、1つの中学校の連携型の小中一貫教育を見据えてのものであった。モジュール学習の他にも小中の連携として情報交換や研究会など教員間の連携を密に行っているとのことだった。モジュール学習

は、その中の目玉として行われていた。市の教育委員会の指導主事や学校長、研究主任とモジュール授業に関する研究の流れや概要、今後の展開について話を聞くことができた。印象的だったのは、教育委員会と小学校、中学校が一体となって研究が進められているところであった。行政や管理職のリーダーシップのもと、目的が共有化され、各校足並みを揃えて研究が行われていた。組織が連携し、職員の意思疎通が図れていることで一体感を強く感じた。参観したモジュール学習であるが、全校が同じ時間帯に一齐に授業として臨んでいた。学習内容は新出漢字で、児童たちは教育機器を活用し、工夫されたワークシートを用いて学習に取り組んでいた(図3)。視察をまとめると、10分間のモジュール授業を毎日行っていること、教材・教育機器・指導法は全学年共通していること、学習内容は計画的で新出漢字に限定していることが挙げられる。2時間目の後に、5分休憩を挟んでモジュール学習が行われていることが印象的であった。



図3 モジュール学習の授業の様子

これまで、モジュール学習の教職員の意識調査と先進校での実践、周辺校の実施状況など、丁寧に調査を進めてきた。そこから、見えてきた以下の3つの点に着目した。

- ア 教職員の意識向上
- イ 学校の実態に即した時程の工夫
- ウ 学習内容を明確にした計画

この3点から、モジュール学習を成り立たせるための提案を考えた。

アの教職員の意識向上については、授業とし

ての意識をもつことが大切ということである。そのための手立てとして、学習計画表の見直しや打ち合わせの時間を設定して職員間で共通理解する時間をもつことだと考える。

イの学校の実態に即した時程の工夫については、メリハリのある効果的な時程の導入が大切ということである。そのための手立てとして、5分間の休憩を導入したり、活動内容を入れ替えたりすることである。活動内容の入れ替えとは、授業後にモジュール学習を行うこと、昼休み後にモジュール学習を行うこと、45分授業とモジュール学習を合わせて行うことなどが考えられる。

ウの学習内容を明確にした計画については、学習計画表を作成することが大切ということである。そのための手立てとして、学習内容を絞ること、無理のない学習計画を立てること、学年間の指導の共有化を図ることが考えられる。

各教科の学習内容を具体的に挙げると以下のようなことが考えられる。

○国語

新出漢字、言葉、小単元、書写の学習は、内容を短時間学習に分けることができる。

○算数

演習問題を行うことで理解の定着を図ることができる。

○外国語

「話す」「聞く」「読む」「書く」活動を短時間に分けて学習することが可能である。

また、45分とモジュール学習を合わせた授業として、以下のようなことが考えられる。

○算数

例 単元名「単位量あたりの大きさ」
モジュール学習と45分を合わせることで、演習問題を増やしたり、学び合いの時間を増やしたりすることができるので、理解の定着を図ることができる。

○国語

例 単元名「学級討論会をしよう」
モジュール学習と45分を合わせることで、討論のための自分の考えをまとめたり、討論

会の時間を十分に設定したりできるので、理解の定着を図ることができる。

○総合

調べ学習や発表・まとめの活動に対してゆとりをもって行うことができる。

○図工・家庭科

絵や工作，ミシンを使った製作，調理実習等の活動にゆとりをもって行うことができる

(3)検証③

所属校へのモジュール学習の提案

○所属校の実態に即したモジュール学習

①教職員の意識向上

学習計画表をもとに学年間の打ち合わせを行う。

②学校の実態に即した時程の工夫

授業と授業の間にモジュール学習を組み込む。朝の時間はなくなることが多く、揃わない、せわしい感を改善する。5分休憩を導入して気持ちの切り替えや準備の時間をとる。

③学習内容を明確にした計画

国語の新出漢字と小単元の学習内容を継続する。指導内容や方法を計画的に立て、学年間で合わせていく。学習内容だけではなく、指導方法も基本的に同様とする。

(4)検証④

所属校におけるモジュール学習の検証

○検証学年（5年生2クラス）

○検証期間（10月3，8，10，15，17，24，29，31日の8回）

○検証時間（火曜と木曜日の25分間のモジュール学習）

（検証前）	（検証）
8:20～8:45 モジュール学習	8:20～8:30 朝の会
8:45～8:55 朝の会	8:30～9:15 1校時
8:55～9:40 1校時	9:15～9:20 5分休憩
	9:20～9:40 モジュール学習

○授業者との打ち合わせ

モジュール学習を終えた後，始業前の時間

に学習指導案（略案）をもとに学習内容を確認した（図5）。

第5学年 朝のモジュール学習指導案（略案）				
1. 日時	令和元年10月29日【火】	9:20～9:40	指導者	神松 真希
2. 場所	5年2組教室			
3. 目標	新出漢字「器」「鑑」「疾」「迎」の読み方、書き方、使い方を理解することができる。			
4. 展開	学習活動	教師の支援	番号	
1. 新出漢字の書き順を知る。		・黒板に新出漢字を書く。	1	
		・位置と一筆に指で書き順を確かめる。	2	
2. 新出漢字の読み方を知る。		・読み方を紹介する。	3	
		・音読み、熟読みを覚悟させる。	4	
		・部首を確かめる。	5	
3. 書き順を確かめながら練習する。		・ドリルにある新出漢字を2度なぞり書きをさせる。	6	
			7	
4. 新出漢字を正しく書く。		・ドリルにある枠を使い、なぞり書きをして丁寧に書かせる。	8	
			9	
5. 新出漢字を使って熟語を知る。		・ドリルを用いて、熟語を練習させる。	10	
			11	
6. 一行作文を書く。		・ノートを用いて、学習した新出漢字を用いて一文を書く。	12	
		・漢字検定紙を使わせる。	13	
		・一行作文を書くことのできない児童へは例題を提示する。	14	
※20分間に4つの新出漢字を学ぶ。				



図5 モジュール学習略案

○学習内容と指導方法

新出漢字であれば，ドリルを使用して，4つの段階的な指導（書き順→なぞり→ワーク→熟語チェック・一行作文の指導）を行った。また，小単元であれば2回で1単位時間の指導内容を扱い，ワークシートを活用して行った。

○授業者としての視点

実際に授業をすることで，個人差はあるものの，習慣化されれば十分に学習の定着が図れる手ごたえをつかむことができた（図6）。



図6 モジュール学習の授業の様子

○モジュール学習の実践後の意識調査

調査項目は、モジュール学習の手ごたえや課題、子どもたちの様子など、5年生の先生方には、検証前と後を比較しての意見などとした。

わかったことは、モジュール学習を成立させるためには、指導内容を選定すること、学習計画の見通しを立てること、時間を守って「授業」としての意識をもつことなどが挙げられた。検証した5年生の先生方からは、時程の工夫により、授業として意識して学習に取り組んだこと、学習内容の明確化については、漢字学習は有効で、小単元学習は教材研究が必要なこと、検証前との比較として、児童の集中力が上がったこと、指導法の統一化の必要性を感じたことが挙げられた。しかし、漢字の定着について、あまり変化はでなかったという意見が聞かれた。

(5) 検証⑤

モジュール学習を導入するための提案

◎所属校におけるモジュール学習の改善案

①教職員の意識向上

- ・「学習」ではなく、「授業」としての認識を共有する。
- ・全校体制で実施する。

②学校の実態に即した時程の工夫

- ・5分休憩を準備の時間とし、モジュール学習の時間を確保する（朝活動の時間には行わない）。
- ・児童の生活リズムを変えないように毎日行う（10分間×5日間）。

③学習内容を明確にした計画

- ・学習内容は新出漢字と漢字に関する小単元に限定する。
- ・年度が変わっても担任が代わっても学習方法や指導方法が変わらないようにする。

（例）教材教具の統一化（ドリルの使用）
指導法（音訓読み・空書き書き順2回・熟語2つ・作文は家庭学習で行うなど）

モジュール学習の導入においては、「組織」「時間」「内容」の3つが重要となると考える。

まず「組織」である。教職員の意識を向上させるためには、課題について共通理解を図ることだと考える。モジュール学習であれば、その意義や必要性など、時数をカウントする授業として行う意識を徹底しないとならない。その意識を高めるためには、全職員が関わりをもつ、全校体制での取り組みが必要となってくる。

次に「時間」である。モジュール学習を授業として位置付けるために、気持ちの切り替えが必要となる。そのために5分休憩を挟み、その時間で、子どもたちは学習への気持ちの切り替え、教職員は準備も含めた授業への意識をもつ。また、落ち着いて学習に向かうために、登校後すぐの朝活動の時間に設定しないこと、生活リズムを変えずに短時間で毎日行うことがよいと考える。このことから、10分間のモジュール学習を提案する（図7）。これは、月曜日から金曜日までの5日間、10分間のモジュール学習を行うことで1単位の学習となり、時数の確保にも繋がると考える。

一日の時程の例		
		月～金曜
朝活動	8:20～ 8:35	
朝の会	8:35～ 8:45	
1校時	8:45～ 9:30	
2校時	9:35～ 10:20	
5分休憩	10:20～ 10:25	
モジュール学習	10:25～ 10:35	
業間休み	10:35～ 10:50	

図7 モジュール学習を加えた一日の時程の例

最後に「内容」である。時間との関連もあるが、時間が長いと学習内容も増えることから、短時間で行うことが望ましい。短時間学習で効果があると思われる内容は、学習目標が立てやすく、学習活動が細分化できるものであると考える。例えば、新出漢字や漢字に

関わる小単元の学習は、目標が明確で、1字1字区切ることができたり、言語について分けて学習したりすることができる。また、学習内容の定着を図るためには、計画性をもつことも大切となる。いつ、どんな目標で、どんな内容の学習を行うのか、一目でわかるような計画が求められる。更に、全学年共通する内容で、同じような指導方法を行うことができれば、継続にも繋がり、学習の積み重ねによる効果もあると考える（図8）。

第5学年モジュール学習学習計画									
回数	学期	月	週	曜日	学習単元	新出漢字	目標		
1	1	4	2	月	ふるさと	情景	新出漢字を覚える		
2				火	ふるさと	任那	新出漢字を覚える		
3				水	ふるさと	嵯峨	新出漢字を覚える		
4				木	ふるさと	似格	新出漢字を覚える		
5				金	ふるさと	像極	新出漢字を覚える		
6				月	ふるさと	解繹	新出漢字を覚える		
7				火	漢字の広場		漢字の習熟をはかる		
8				水	漢字の広場		漢字の習熟をはかる		
9				木	漢字の広場		漢字の習熟をはかる		
10				金	漢字の広場		漢字の習熟をはかる		
11				月	新聞を読もう	興銀	新出漢字を覚える		
12				火	新聞を読もう	容経	新出漢字を覚える		
13				水	新聞を読もう	逆博	新出漢字を覚える		
14				木	新聞を読もう	比刊	新出漢字を覚える		
15				金	新聞を読もう	効許	新出漢字を覚える		
16			2	火	漢字の成り立ち	可何	新出漢字を覚える		
17				水	漢字の成り立ち	綱修	新出漢字を覚える		
18				木	漢字の成り立ち	復移	新出漢字を覚える		
19				金	漢字の成り立ち	預賓	新出漢字を覚える		
20				月	漢字の成り立ち	易潔	新出漢字を覚える		
21				火	漢字の成り立ち		漢字の成り立ちを理解できる		
22				水	漢字の成り立ち		漢字の成り立ちを理解できる		
23				木	漢字の成り立ち		漢字の成り立ちを理解できる		
24				金	漢字の成り立ち		漢字の成り立ちを理解できる		
25			4	月	見立てる	在支	新出漢字を覚える		
26				火	見立てる	性幹	新出漢字を覚える		
27				水	見立てる	枝似	新出漢字を覚える		
28				木	見立てる	基種	新出漢字を覚える		
29				金	見立てる	保速	新出漢字を覚える		
30				月	見立てる	要述	新出漢字を覚える		
31				火	漢字の広場		漢字の習熟をはかる		
32			5	水	漢字の広場		漢字の習熟をはかる		
33				木	漢字の広場		漢字の習熟をはかる		
34				金	漢字の広場		漢字の習熟をはかる		
35				月	古典の世界	質準	新出漢字を覚える		
36				火	古典の世界	備確	新出漢字を覚える		
37				水	古典の世界	風夢	新出漢字を覚える		
38				木	古典の世界	疎心	新出漢字を覚える		
39			6	金	古典の世界	勢職	新出漢字を覚える		
40				月	広がるつながる	説造	新出漢字を覚える		
41				火	広がるつながる	築再	新出漢字を覚える		
42				水	広がるつながる	講総	新出漢字を覚える		
43				木	広がるつながる	製混	新出漢字を覚える		
44				金	広がるつながる	燃圧	新出漢字を覚える		
45				月	広がるつながる	素統	新出漢字を覚える		
46			3	火	広がるつながる	断迷	新出漢字を覚える		
47				水	漢字の広場		漢字の習熟をはかる		
48				木	漢字の広場		漢字の習熟をはかる		
49				金	漢字の広場		漢字の習熟をはかる		
50				月	漢字の広場		漢字の習熟をはかる		
51				火	漢字の広場		漢字の習熟をはかる		
52				水	漢字の広場		漢字の習熟をはかる		
53			1	木	漢字の広場		漢字の習熟をはかる		
54				火	漢字の広場		漢字の習熟をはかる		
55				水	次への一歩	査確	新出漢字を覚える		
56				木	次への一歩	因限	新出漢字を覚える		
57				金	からたちの花	授厚	新出漢字を覚える		
58				月	からたちの花	徳旧	新出漢字を覚える		
59			2	火	からたちの花	唇韻	新出漢字を覚える		
60				水	からたちの花	眼微	新出漢字を覚える		
61				木	からたちの花	規則	新出漢字を覚える		
62				金	からたちの花	承繼	新出漢字を覚える		
63				月	からたちの花	實敬	新出漢字を覚える		
64			3	火	カンジー博士の		漢字の習熟をはかる		
65				水	カンジー博士の		漢字の習熟をはかる		
66				木	カンジー博士の		漢字の習熟をはかる		
67				金	カンジー博士の		漢字の習熟をはかる		

図8 第5学年モジュール学習計画1学期の例

7.研究のまとめ

モジュール学習を導入するためには、「組織」「時間」「内容」の3つが必要条件となり、この3つから多くの成果が出され、課題解消にも繋がるが見えてきた（図9）。

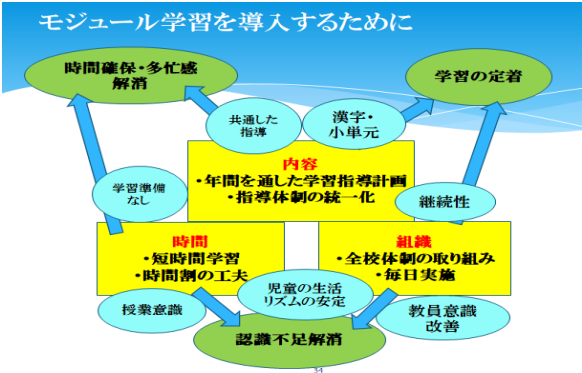


図9 モジュール学習の課題改善に向けた方策

これらを踏まえ、モジュール学習の可能性について考えたい。学校や地域の実態によっても変わってくると思われるが、各学校による主体性や創造性が求められる中で、今後、時間を生み出すマネジメントは更に必要となってくる。その中の一つとして、モジュール学習が挙げられると思う。これを学校組織全体で取り組むことで、教員意識の共有化が生まれ、時間や学習内容についての評価や改善がしやすくなり、学校の実態に即したものになる。今後、学習の質にも着目しながら、更なる弾力的な時間の運用や学習内容の多様化など、モジュール学習のもつ可能性は大きいと考える。

今回は、時間を生み出すマネジメントに焦点を当てて研究を進めてきた。この積み重ねが、カリキュラム・マネジメント、更には学校マネジメントとなり、今後必要とされる学校の独自性に繋がっていくと思われる。

引用文献・資料

- ・現代学校経営研究会（2018）
新学習指導要領を推進する学校マネジメント
- ・高木展郎 矢ノ浦勝之（2018） 学事出版
「カリキュラム・マネジメント」の進め方 小学館
- ・向山行雄（2018）
小学校時間割編制がわかる本 教育開発研究所
- ・カリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査
研究発表会「より教育効果を高める時程の研究」の
研究資料 宇治田原町教育委員会
- ・宇治田原町立宇治田原小学校 校内研究会研究資料